

令和5年度 学校法人菊地学園 認定こども園しらこぼと幼稚園 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはしない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～してしようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお仕舞いだよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたくなるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	B
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	A
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行って。」などと言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	A

園長所感

評価を見るとBが一つで、他全ての項目でA評価のため、全体的に良い結果となっているが、園としてはこの結果で安心するのではなく、引き続き職員全員で共通認識を図り、より一層意識しなければならない部分もまだある。

子どもに対する言葉かけ一つをとっても自分ではできているが周囲から見た時とで評価は変わってくると感じる。今回の自己評価項目全てで言えることだが、いつ誰が見ても安心される保育で良いと思ってもらえるよう職員同士で意見を出し合い、互いに評価をし合いながら進めたいと思う。自己評価と周囲からの評価が一致するよう今後も園として努める。

令和5年度 学校法人菊地学園 しらこぼと附属保育園大袋駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	B
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	B
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはしない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	B
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	B
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	B
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	B
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	B	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	B
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	B
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	B
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	B
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	B
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	B
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	B
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	B
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを洪っている子に、「早くやて。できないなら後ろに行つて。」などと言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「○○ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	B
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	B

園長所感

主に事務的な作業部分の項目でB評価が多々あり、その部分で職員一人ひとりが自己評価として難しかったと判断したのではないかと感じた。園として職員一人ひとりが時間を有効に使い、計画性をもって作業を行っていくことが今後必要であると考えられる。今後は職員間でのコミュニケーションがより一層必要になり、職員会議等で情報共有が図れるよう意識したいと思う。今後は子どもにいい保育を心掛けることはもちろんのこと、職員会議やミーティング等を介して有効な発言や意見交換の場として行っていくことでより良い保育が行えると考えられる。

令和5年度 学校法人菊地学園 しらこばと附属保育園せんげん台駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお化けがくるよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみたい気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	A
	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	B
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行って。」などと言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなか できない子どもに、「○○ ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	A

園長所感

評価としては全体的に良い評価となっているが、日々の保育の中で「やりたい保育」を考えるための研修やミーティング、職員会議等が十分に実施ができなかったと感じる。次年度以降は職員全員で話し合える時間を設けたい。今後は現状の保育をより良くしていくためにも、研修に参加して学びを得たり、職員会議で職員間のコミュニケーションを図る中で子どもの状況を共有し、子どものための「ていねいな保育を」心掛けて保育を展開する。

令和5年度 学校法人菊地学園 しらこぼと附属保育園北越谷駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書いて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	C
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはしない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお仕舞いだよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみようという気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境を整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはしない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	B
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	C
散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A	
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行っ。」となど言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度 をしている時に、なかなか できない子どもに、「○○ ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
地域貢献	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	B

園長所感

大部分の評価を見ると大変良い結果となっているが、職員一人ひとりが自身の職務に対する理解に悩んでいる姿がみられることがあった。今後は職員会議等で職務分掌を全員で確認し合う場を設けるなどして一人ひとりが職務を把握できるようにしたい。

自園の所在地や電話番号など、防犯の観点から緊急性のある時に速やかに発信できるよう心がける。日々子どもたちの様子を保護者に伝えることは、信頼関係の構築につながることもあるため、職員として今後も常に心掛ける必要がある。その他Aとなっている評価部分でも、現状に満足はせず次年度以降も引き続き良い自己評価となるよう今後も努めてまいりたい。

令和5年度 学校法人菊地学園「こころの花」ほいくえん登戸駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはしない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお仕舞いだよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみようという気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはしない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	A
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A	
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A	
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行っ。」となど言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度 をしている時に、なかなか できない子どもに、「○○ ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	A

園長所感

人権擁護に関しては、日々ていねいな保育を意識しながら子どもと関わることが出来ている。自己評価の結果から読み取ると全員が意識して出来ているとなるが、現状に満足はせず、職員間で気になることがあれば職員同士で声を掛け合ったり、職員会議等で話し合いの場を設け、一人ひとりが常に高い意識を持って保育に当たれるよう今後も園として心掛ける。

安全管理の不審者訓練に関しては、訓練回数を増やし避難訓練と同様にあらゆる可能性を想定し、実施する必要があると感じる。

今回の自己評価の結果を踏まえ、次年度以降も職員全員で振り返りの場を設け、更なる周知徹底を図り、安心安全な保育の運営に務める。

令和5年度 学校法人菊地学園「こころの花」ほいくえんレイクタウン駅 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	総評
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	A
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰りがらないときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお仕舞いだよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみようという気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとすることはせず、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境が整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	A
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	C
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
人材育成	散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A
	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
記録の計画と活用	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
保育園の職務と役割	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A	
人権擁護	保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A
	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを洪っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行っ。」となど言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度 をしている時に、なかなか できない子どもに、「○○ ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	A

園長総評

全体総評だけで判断せずに、一人ひとりが自己評価を振り返りながら日々保育の質の向上につとめる。また職員会議等で情報共有を図り、今後も継続して職員全員で子どもたちの為に安心安全な保育に取り組めるようにする。

「安全管理」

●事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている

全職員への周知が的確にいかず、係任せになっていた面があると感じる。安心安全な保育を行うためにも必ず全職員で意識をし、取り組んでいく必要がある。今後は職員周知の方法を見直し、フローを作成する。

●自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る

今現在、住所・電話番号は言える状態だが、一社会人として自園情報等は確実にインプットしておく必要があると感じる。一人ひとりが園の顔ということを自覚し、自園の情報を第三者へと伝えられるようにしておく。

「主体的な保育・ていねいな保育について」

●総評ではAだが、今後も意識していかなければいけない部分もある。「自分は出来ているから大丈夫」と満足するのではなく、職員会議等で職員間で互いの保育を振り返れる機会を設け、今以上に意識して、ていねいな保育をより一層心掛ける。

令和5年度 学校法人菊地学園「こころの花」ほいくえん南流山駅前 自己評価について

当学園は「ここで過ごした全員が幸せになってほしい それが私たちの願いです」という理念のもと日々保育の質の向上を目指し運営を行っております。

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき、当学園では自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるよう努力してまいります。

<評価について>

A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する

分類	項目	評価
法人理解	菊地学園の理念方針目標が書けて、言える	B
	菊地学園の理念方針目標の内容を理解しようと努力している	A
	菊地学園の理念方針目標と保育を繋げて考えられるように心がけている	A
	ていねいな保育について考え、実践してみようとしている	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解に努めている	A
主体的な保育・ていねいな保育について	子どもの一人一人のペースを理解して、その子に合わせた関わりをしている	A
	「ダメ」と言うだけでなく、なぜ駄目なのかの理由を伝えている	A
	園から出るときや公園から帰るときに「置いていくよ」などと声をかけていない	A
	トラブルの仲裁時に、乱暴に引き離したり、子どもの体を強く抑えて話しをすることはない	A
	子どもへの介助は、言葉をかけてからっている(鼻をかむ、排便時、抱っこなど)	A
	午睡時など、子どもが寝ている所をまたぐことはない	A
	自分の機嫌で対応を変えていない	A
	自由画や制作の際、見栄えを気にして子どもの思い以上の手を加えてはいない	A
	遠くから大きな声で子どもを呼びかけず、子どものそばで声を掛けるようにしている	A
	子どもが遊んでいる最中に、必要以上に言葉をかけすぎず見守ることも大切にしている	A
	子ども自身が自ら選んで行動できるような言葉かけを常に心がけている	A
	～しないとできないよ、ではなく、～しようねなど前向きな言葉かけを心がけている	A
	子どもの質問や呼びかけには、なるべくすぐに応えてあげられるように心がけている	A
	「OOしないとお仕舞いだよ」など、子どもの怖がる言葉や物を使って保育者の都合通りに誘導していない	A
	「早くして」等、子どもをせかすような言葉かけにならないようにしている	A
	次の活動に期待が持てるような言葉かけをしている	A
	子どもが安心して思いを伝えられる関係性が築けるように心がけている	A
	子どもが伝えようとしている想いを受け止め、先取りせず子ども自身の言葉を待っている	A
	「やりたくない」という子どもの気持ちを認めている	A
	危険だからと制止をしたり汚れないことを優先せず、子どもがやってみようという気持ちを大切にしている	A
	なかなか泣き止んでくれない時、大人の都合で無理矢理泣き止ませようとするのではなく、泣きたい気持ちを十分受け止めている	A
	子ども同士で解決しようとしている場面を最後までじっくりと見守っている	A
	一人一人の排泄のタイミングに合わせた声掛けをしている	A
	おむつ替えをするときに優しく語りかけ、コミュニケーションを大切にしている	A
	オムツ替えが流れ作業になっていない	A
	おむつ交換等を他人に見えるところしないなど、配慮している	A
	排泄の失敗を、皆に聞こえるような声では言わず、子どもの人権を尊重している	A
	男の子だから、女の子だからと役割や行動を決めつけず、子どもの意思を尊重している	A
	子どもの家庭環境についての話を大勢の前などですることはない	A
	人目に付かないところで着脱できるような環境を整えている	A
衣類の着脱の際、すべて脱いでから着替えることがないよう、着替え方にも留意している	A	
食育	楽しく落ち着いて食べられる雰囲気作りを常に心がけている	A
	食べる順序などを子どもが自由に選択できる環境がある	A
	苦手な食べ物を「一口でもいいから」と無理強いて食べさせるのではなく、食べたいようになるように声掛けを工夫している	A
	食材に興味を持てるような言葉かけや、環境の工夫をしている	A
	食事の量を子どもの意思を受け止めて調整している	A
	野菜を育てたり食材や素材を知る食育の機会を設け、食に対する知識を伝えられるよう工夫している	B
食事のマナーや配膳の仕方など食事の基本を年齢に応じて伝えている	A	

保護者との関わり	日々の子どもの様子をお互いに伝えあいコミュニケーションをはかっている	A
	保育者の押し付けではなく、保護者の自己決定を尊重している	A
	保護者に報告をする際、周囲に聞こえないような配慮をしている	A
	個人情報の取扱いに十分気を付けている	A
	保護者がつけた名前を大切に、呼び捨てにすることはない	A
	運営全般、日々の保育、子どもの様子に関しての情報発信を日頃から心がけている	A
	同じ子どもや保護者ばかりではなく皆と平等に接するように意識している	A
	国籍の違う家庭に対し、文化の違いを理解しようとしている	A
	保護者からの意見や要望に対して、迅速に対応するようにしている	A
	保護者からの苦情・相談については指定の様式に記録し、職員周知や改善への努力をしている。	A
	上から目線や、友達感覚にならないなど、言葉遣いには十分気を付けている	A
安全管理	事故防止チェックリストに基づき、園の安全点検を行い、危険個所の改善を行っている	A
	月一回避難訓練を実施し、防災への意識や迅速な対応が取れるように努めている	A
	不審者訓練を行っている	A
	ヒヤリハットを活用し、日々の保育の振り返りを行っている	A
	事故防止委員会を中心に定期的な話し合いを実施し園の安全管理に努めている	B
	年齢別のプレスチェックを管理表を用いてきちんと記録し健康状態を把握している。	A
	自分の園の住所・電話番号が言う事が出来る。	B
散歩マップを作成し、園外散歩時にはルートの安全確認・引率人数の把握・帰園時間などを報告をした上で計画性を持って出かけている。	A	
人材育成	積極的に研修に参加をしたり、専門書などを読んでいる	A
	研修に参加する際は、課題意識をもって取り組んでいる	A
	目標シートを元に自己の年間の計画や目標を立て、取り組んでいる。	A
	研修で得た知識を、自分だけでなく、職員間で共有を行い保育の質の向上に繋げている	A
記録の計画と活用	年間指導計画、月案、週案を作成し、見通しを持って日々の保育にあたっている	A
	目の前の子どもの姿を捉え、柔軟に計画を変更しながらより良い保育を目指している	A
	児童表へ園児の成長・発達について定期的に記録している。また年度の切り替え時にはそれを元にきちんと引継ぎをおこなっている。	A
	職員間の話し合いや、記録を活用し保育の振り返りを行っている	A
保育園の職務と役割	園長や主任の指示がどういう意図で出されているかわからないとき、質問をしたり意見をし法人運営を理解しようとしている	A
	職員会議やミーティングにおいて、当事者意識を持ち必要と思う質問や疑問、意見を発言するように努めている	A
	業務で問題を感じた時、あなたは園長や主任、先輩保育士などに、その原因や対策の仕方を相談している	A
	保育士・栄養士・看護師全ての職種がチームとなって保育園を運営するという意識を持っている。	A
	教材や備品、消耗品等を責任を持って点検・管理し、園の一員として整理整頓を心がけている	A
	欠勤した日の出来事や連絡事項は、自分から尋ねて理解するなど、職員間の連携に努めていますか	A
	職務分掌表を読み、自分の職務内容の理解し、時に自分の役割について上司や同僚とコミュニケーションをはかり理解を深めるように努めている。	A
保育園にかかわる仕事を頼まれたとき、それも職務の一端と考え、責任をもって取り組むようにしている	A	
人権擁護	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張るなどの行為はしていない	A
	子どもに対して指差して指示をするような事はせず、子どものそばに言って声を掛けるようにしている	A
	子どもを注意する際に「だめよ!」と言って子どもの手を叩くなどはしていない	A
	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかつた子どもに対し、廊下 に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与えるようなことはしていない	A
	苦手なことを渋っている子に、「早くやっ。できないなら後ろに行っ。」となど言ったり、他者と比較するなど否定的な言葉がけはしていない	A
	クラス全員で帰りの支度 をしている時に、なかなか できない子どもに、「○○ ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」など否定的な声掛けはしていない	A
	どなったり、「○○しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとしていない	A
	いつもぎりぎりの時間に迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりせず、保護者の状況も理解する気持ちもち園の要望を伝えている。	A
地域貢献	日頃の保育内容、子どもたちへの保育方法のすべてが、地域の子育て支援につながることを認識している	A
	保育園には子育て相談などの「地域の子育て支援」という役割が求められていることを受け止め、自分も積極的に関わりたいと考えている	A
	保育園が発信元になって、園の保護者以外にも子育ての大切さや喜びを伝える役割を担っていることを理解している	A
	園便り・HP・掲示板などを活用し施設の情報を発信している	A
	地域に自園の魅力を伝える事が保育の質の向上に繋がる事を理解し取り組んでいる	A
	保育園が地域の中学・高校の生徒との交流をしたり、実習生を受け入れるときに、未来の保育士を育成することも保育士の役割と認識して指導している	A

園長所感

前回の自己評価よりもAの割合がだいぶ増えている。特に「主体性を持った保育、ていねいな保育」の評価部分で変化が見られ、職員一人ひとりが「ていねいな保育」や「不適切保育」を意識して、園児(担当クラス子ども)の発達段階、興味関心を見て保育を展開していることが評価から読み取れた。一人ひとりの評価が高いからと言って、現状に満足はせず月1回実施している職員会議やクラスmtで職員全体で保育を振り返れる時間を引き続き設けることで、園として保育の質の向上に努める。また、自身の保育を振り返るだけでなく、他者の気になる言動や参考にしたいことがあった際は職員間で共有し合ったり、伝え合うようにする。

各項目において評価がBの部分に関しては、園として課題を抽出して課題解決に努める。園として課題を明確にすることで、職員一人ひとりが具体的な行動に移せるようにする。

園の住所や電話番号に関しては、園として評価Aを目指したい。